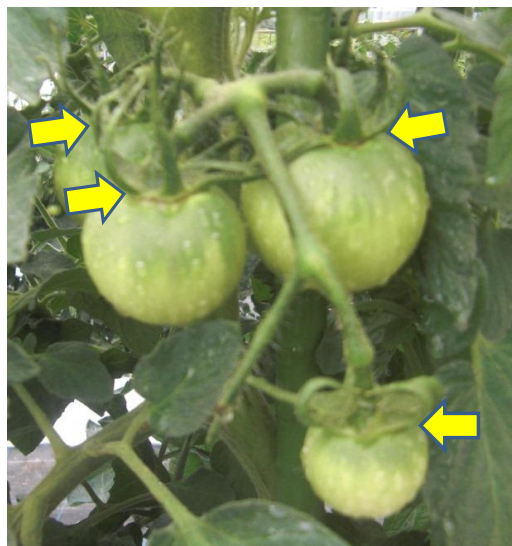
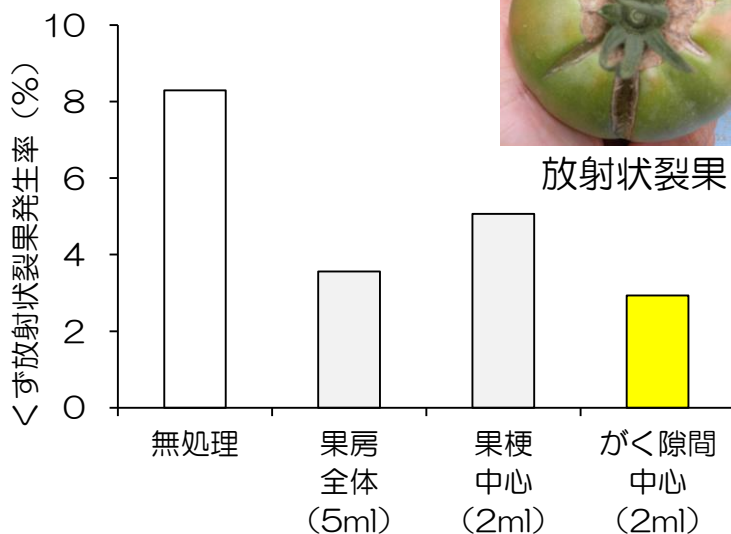


トマトの放射状裂果軽減のためのフルメット液剤の効果的な散布法



がくと果実の隙間（矢印の部位）に薬液が保持されるよう散布！



放射状裂果

散布部位、果房当たり散布量とくず放射状裂果発生率

開発のねらい

雨除け栽培で夏季に発生して廃棄や等級落ちを招く放射状裂果の軽減のために、農薬として適用拡大登録されたフルメット液剤の効果的な散布方法を明らかにしました。

新技術の概要

- ▶ ハンドスプレーを使って液剤を散布する際、がくと幼果の隙間に薬液が保持されるように行くと、約0.5ml/果（果房当たり約2ml）の少量の薬液でも放射状裂果の軽減効果が安定します。

活用場面

放射状裂果は、開花期～幼果期のハウス内平均気温が26℃を超えると多発の危険性が高まります。この場合、フルメット液剤散布で発生軽減が期待できます。

本技術は県下の夏秋雨除けトマト全体に適用できます。さらに、放射状裂果の低減により販売額が増加し、農家所得の向上につながります。